

第六十八回句会 俳句

【高点句】

- ☆キャンパスは落葉踏むものなく閑（しずか） 〈莫院〉
☆冬夕焼旧国道は海に沿ひ 〈明美〉
☆信州の旅の終わりや走り蕎麦 〈伸子〉
☆タワマンに半身取られし富士の雪 〈青蛙〉
☆猫じゃらし手にして母と幼稚園 〈郁代〉

【各自一句】

- ・「どちらから」声かけられて冬至風呂 〈伸子〉
・水面蹴り大白鳥の飛び立ちぬ 〈緑〉
・諸隠し枝で弄る（まさぐる）落葉焚き 〈隆司〉
・下校児の指切り落葉踏みながら 〈眞澄〉
・ウオーキングするも一列落葉踏む 〈郁代〉
・柳葉魚食う天気予報は今日も晴れ 〈撫子〉
・わしわしと踏みて鈴懸落葉かな 〈明美〉
・頼朝の頬に紅さす紅葉かな 〈哲雄〉
・朴落葉突如眼前掠めたる 〈一馬〉
・母からの5度目の電話月冴えて 〈青蛙〉
・皿回し银杏落葉を客席に 〈安津子〉
・探査機の着地はそろり木の葉降る 〈莫院〉

*以上、37句（3句ずつ12名、1句1名）より、選句は13名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句（今回は第2位が同点で4句）

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による（得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載）